

## チーム横田 全体演習で準備態勢を確認 *Team Yokota tests readiness in base-wide exercise*

May 7, 2021

By Staff Sgt. Miquel Jordan  
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地のメンバーは4月25日から5月6日までの2週間、「サムライ即応監査演習」を実施した。

この全体演習では、複合的な領域の能力を活かし、国家や非国家の敵と戦い、抑止し、勝利するための確実かつ有能でダイナミックな防衛態勢を構築することで、管轄地域における米国および同盟国軍に挑もうとする敵に打ち勝つことを実証した。

チーム横田は、戦時および有事を想定した条件下で、インド太平洋全域における作戦を支援するためのグローバルな機動力を実践し、航空団の任務を遂行する態勢が出来ているかを評価された。

「演習では、想定した敵がもたらす非日常的な課題に柔軟に対応することが求められた。横田の空兵は、動的及び非動的な幅広い脅威に直面しながら、任務を遂行するための多くの独創的な解決策を見出し、実践した」と第374空輸航空団監査部ジョージ・ロペス技能軍曹は述べた。

横田基地第374空輸航空団の監査チームは、基地の情報担当官や特定の専門官と緊密に協力し、関係する全ての部隊が目指す習得目標を満たすよう計画された現実的なトレーニングを開発した。演習で空兵たちは、化学物質の漏出とミサイル攻撃、基地不正侵入、航空機ハイジャック、航空機火災などを想定したさまざまなシナリオに挑んだ。

第374憲兵中隊基地防衛作戦センター(BDOC)管理官のチャールズ・トラスター軍曹は、「演習では将来起こりうるあらゆる事態に備えるために、最も現実的なシナリオを実践できる。そして不足している部分を特定し、人員や財産を守り、目下の任務を完遂するための技術を磨くことができる」と語った。

今回の演習で横田基地は、各部隊の知識や技能、そして有事対応力を効果的にテストすることができた。

「敵の脅威は絶えず進化しており、現在の戦術、技術、手順が常に使えるとは限らない。リーダーたちは、逆境を乗り越えてミッションを成功させるために、あらゆるレベルの空兵がイノベーションとイニシアチブを発揮することを期待している」とロペス技能軍曹は述べた。

